

やり直しのできる社会を！

# 新宿連絡会 NEWS

**VOL. 40**  
**2005.3.1**

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議  
〒111-0021 東京都台東区日本堤 1-25-11  
山谷労働者福祉会館気付  
TEL.090-3818-3450 FAX.03-3373-9878  
<http://www.tokyohomeless.com>

## 地域生活移行支援事業と越年 ～雑感～

笠井 和明

長い冬に崇られていると縁起でもない事をしきりに考えるようになる。

今始まったものではない、おそらく太古からの人の世には必ずつき纏っていた「不幸」とやらを日々見つめている内に、今の世がどの世なのかさえ分別つかなくなっても仕方があるまい。一時的な転機は、あくまで一時的でしかなく、一時的な希望もまた同じ。不安の中で泳ぎ回っている小魚の群れは、突然変異かなにかで大きな魚にならない限りその範疇で永遠に泳ぎ回るしかない。

新宿における地域生活移行支援事業的一幕が2月に終わった。401世帯、417名（現在まで連絡会やねの会が把握している数字）が中央公園、戸山公園から民

間アパートや都営住宅に移り住み、無念にも亡くなった仲間一人、故なくアパートを手放さざるを得なかった仲間一人を除き、ほとんどの仲間が新天地での暮らしのスタートラインに立つ事となった。公園や公園周辺にテントを張って暮らしていた仲間、テントまでは張っていなかったものの、公園を中心に暮らしをしていた仲間達が自主的に自分の判断で移行を決意した事となっている。もちろん、これは表面的な話で、実際は公園管理事務所などが排除をチラつかせて移行を迫ったケースも少なからず含まれている。その事への防衛線を連絡会では張ったつもりではいたものの幾つかのケースでは対応が後手後手になった事も事実である。6月の「説明会」での「約束」は全体としては守られたものの、これまた細かなケースでは反故にされ、その事への不信感を持った仲間も少なからずいた。

東京都や特別区が直轄せず、民間団体を通して実施させようとしたこの事業は、民間団体の業務遂行能力に対する過大評価をベースにしたものであった。民間団体サイドの様々な努力は否定しないものの、客観的には明らかに民間団体の力不足は否定できないし、またその事から来る様々なトラブル等についての都区の調整能力（とりわけ、福祉と建設と云うこの事業に対する考え方の違う行政部門間の調整は特に）もこれもまた同じく力不足であったと言えよう。この事業が全体として「見事に推移した」とはとうて云えないし、



かつての施策の実験場であり続けた新宿が今回もまた同じ轍を踏んでいるだけのようだ。

もちろん、この事業の「大きな失敗」とは、アパートへ移行した後に雪崩を打ってアパートから離脱し、元の公園、ないしは他の地域に再路上化してしまう事であるが、幸いにしてそのような事態にはもちろんなっていない。期間限定付きとは云え、他施策と比較しても長期（2年）の「契約」で低家賃住宅が保障されている環境は自らの生活を防衛する基盤としては有効に働いており、また個々人の生活防衛能力ははた目から見ると高い（どん底を経験したことのある者の強さとも云えるかも知れない）。また、たとえ騙されて移行したとしても、決定的な生活破綻が起きた時、テント生活や野宿生活に魅力や誘惑を感じなければ再び率先して野宿生活に戻るとは考えられない（もちろんだからと云って騙して良い筈はない）。

その意味では新宿地域における実験は小さな傷で済んでいるかのようなのである。交付金事業最終年度にこの事業が偶然にして当たった事により、仕事にありついでいなかった仲間は相応の臨時就労に従事し、生活リズムや就労意欲を取り戻しつつある。臨時就労さえ疾病などを理由に就けない仲間は「新宿区よりは厳しくない」各福祉事務所で生活保護を受給する事が出来た。住所が出来た事により年金手続きをし、受給し始めた仲間もいる。再就職戦線に自ら飛び込み、自分が希望する職種に就職出来た仲間もいる。

逆に云えば、この事業は、事業参加者の生きる力に支えられている事業とも言えよう。ある一定の条件と環境さえ与えさえすれば、いかに行政や民間団体が

だらしなからうが自分の力で、そして仲間のこれまで培って来た様々な力を発揮して逞しく生活出来るのである。

新宿の実験はそこに再び気づかせてくれた事だけでも価値がある。

排除であるか否かと云う議論を飛び越えて、アパートに移行した人々は脱野宿への道を確実に歩み続けている。施策の手法にばかり拘って来たものにとって目から鱗であった。

もちろん、それは「任しておけば良い」と云う放任主義のそれではない。当事者の意欲や生活力を育む条件や環境をしっかりと整えさせて行く事は運動団体の責務である。移行後の支援体制を良くある「お節介焼き」のそれではなく、さりげない仕組みとしていかに構築させるのか？「あれやれ」「これやれ」的な「いちゃもん要求」ではなく、いかに本質に根ざした改善をさせる事ができるのか？この事に今後の事業の発展、そして移行した仲間の生活はかかっていると云って過言ではない。

ある意味「仕切り直し」でもあり、施策を豊かにしていく作業は今始まったばかりでもある。

「去るも地獄、残るも地獄」と悩んでいた公園の仲間に、よくそう言った。その決断が正しいか間違っていたかなどはどうでも良いし、その評価などは人によって違ったものになる。だから、今回の事業で一番の肝心な事は「自分で決断」する事であった。連絡会は全体としての施策の推進には賛意を表明しながら、公園の個々人には、自らの選択をどちらに転ぼうが最

大限尊重すると云う立場に立った。施策の設計段階においては多に口を出しながらも、決定した施策への判断を当事者に投げる手法は、一見無責任なように思えるかも知れないが、様々な人々が生き抜く路上においては必要な事である。運動はどんなに拳をあげていたとしても、対象の全体を俯瞰していなければ運動など成り立たないし、下手な事をすれば内部対立も平気で引き起してしまう。当事者からしても「自分の人生は自分で決める」と考える人々が多数であり、参考意見は良く聞くが結局は判断は自分でするものである。

だから、施策が終りテント生活等で公園に残った仲間に対して、連絡会はある意味何の感慨もない。公園管理事務所や民間団体などが「これだけ私たちが努力したのに公園に残るなんて」と云う自己正当性の裏返しとして「社会生活不適應者」などとすぐにレッテルをすぐに貼りががるが、もちろんそんな意見には我々は組みしない。自分の判断の中、残る事を選択した仲間の意志を我々は最大限尊重するし、当事者の意志を踏みにじる管理権の行使や強制排除には徹底して反対する。両公園において約70名強の仲間が公園に残る事となったが、たった70名ではなく、小公園や駅周辺を合わせると未だ新宿区内には5-600名の野宿の仲間が存在する。我々は、約70名の仲間への圧力は、新宿区内全体の仲間への圧力と判断する。公園のテントが少なくなっただけで、ホームレス問題が解決するような勘違いをしている中山新宿区政や東京都建設局は、いずれ宴の後を実感する事だろう。

このままの形態では、決してうまくはいかない。これは新宿実験の総括でもある。

悪魔から餌を取り上げ難くしたとしても、所詮悪魔は悪魔、陰でこそこそ餌を貪り続ける。そこへ近視眼の小悪魔共がこれまたぞろぞろと集まる。

「屋根と仕事」につながる有効な手段として勝ち取ったこの事業を路上生活者対策の中で位置づけ直し、必要な仲間が、必要な時に、必要に応じて利用できる施策に作り直していかなければならないだろう。自立支援事業が新宿地域対策から路上対策の一般施策に広がったよう、地域生活移行支援事業もまた同じ歩みに移行させなければならない。そう強く思うのである。

そして、そのためには、現在行われている隅田公園、そして来年度実施予定の代々木公園、上野公園で、どれだけ排除の論理の行使が様々な意味において失敗するかにかかっている。強制力を持ったとしてもあらゆる施策に100%の実績などありはしない。もしあったとしたら、それは歪んだ施策でしかなく、そこに泣く人々を踏みにじっての施策でしかない。

「公園よりもアパートの方が良い」それはそうであろうが、一歩その手法を間違えたならば「アパートよりも公園の方が良い」としかならない。我々が拘るのはこの事のみであり、その事を理解する人々とのみ建設的な議論をしていきたい。

公園施策を加味して先行してしまったこの事業は、

さて、新宿の越年は背後に大きな事業がありつつ相



も変わらず続けられている。今回こそは穏やかな日が続くとばかり考えていたが、初日から雪、おまけに大晦日まで大雪と、雪に呵まれた年越しとなってしまった。そんな中でも、古くからの仲間、アパートに移行した仲間、昨日今日新宿に流れついた仲間達は、自らの仕事を自らで決め、黙々と、雪など屁でもないような顔で作業を続ける。

炊き出しの食数は例年よりも減ったとは云え、それでも400名から500名近い仲間が夕刻の時間には中央公園に集まる。

29日は越年初の都庁下での炊き出し。梅津さん一行の音楽隊も都民広場で越年の応援歌。途中で警備員の野暮な邪魔が入るも、場所をひょこっと変え続行。

30日はCUPEさん一行の楽しい、そして切ない音楽会。大晦日は雪の中での五十嵐正史&ソウルブラザーズの熱演と、カラオケ等の恒例大晦日大イベントを中央公園で決行。2日餅つきイベントにはさすらい姉妹がやってきて路上劇、映画もお堅いのは抜きで大衆娯楽路線を堅持。懐かしのバイオリン引き大原さんも飛び入り参加等々、毎日が楽しく、そして勇気が持てるよう娯楽関係者も大活躍。お祭男の久保ちゃんが死んでも久保ちゃんの意志は無名の仲間達に引きつがれている。皆んなで輪になり踊り出し寒さなんてぶっとばせ！

雪でもろ影響を被った炊き出し班も元気良く毎日の路上の食卓を飾るメニューを編み出す。今年も長野県千曲市産の「野沢菜漬け」が大活躍。6月から上山田の農家の方々の協力のご指導の元畑を皆で耕し、種を植え、12月に寒空の中、調子に乗って6樽も漬けてしまった自家製特産品。今年はいちど漬かり大好評。いつも苦勞する炊き出し班人間関係も今年は何故か良好。一人の脱落者も出さずに無事終了。

山谷飯炊き班も新キャップの元、山谷城北センター前での飯炊きを毎日10数名で組織。山谷の仲間と共に飯の確保をしっかりと支え抜く。物資班も教宣本部も縁の下の力持ち。雪の日には雪かき器も投入し会場をしっかりとガード。もちろん、医療班、パトロール班も仕事キッチリ。総力戦を総力戦と思わずにさらりとやってしまう越年拠点作りは、やはり年月のなせる業か。

地域生活移行支援事業の中、連絡会の存在感がやや低下した感があったが、「連絡会ここに有り」「困った

時は新宿において」と、存在会をしっかりと路上に再び刻印した越年であった。

気分は少しだけ軽くなる。

いまなら古い言葉をさりげなく言える。「生きる希望はどこにある？生きる希望はここにある。仲間と共にここにある」と。

もしかすると小魚の群は突然変異ではなく、自らの力で大きくなれるのかも知れない。

路上に生きて来た、そして今も路上に生きる仲間達に感謝、感謝！

了

# 活動の成果に過信することなく～医療班活動報告

医療班：稲葉 剛

早いもので、新宿連絡会の越年越冬闘争も今回で11回目、中央公園に拠点を移してから7回目になりました。医療班は、今回も24時間体制(一日二交代制)で医療 TENT を運営しましたが、スタッフも協力してくれる仲間も、みな手馴れたもので、テキパキと活動を行なうことができました。

外気の影響を直接的に被る野宿生活では、気温の変動が身体に大きなダメージを与えます。夏は皮膚疾患に悩む人からかゆみ止めを求められ、冬は風邪薬を求める人が長蛇の列を作る、というのが、残念ながら医療班活動の常識になりつつあります。越年の活動も、その年の冬に流行っている風邪の種類に大きく影響され、高熱を伴う風邪が流行った冬には発熱で苦しむ仲間や TENT のベッドが埋まり、下痢を伴う風邪が流行った冬には脱水症状で衰弱した仲間の手当てに追われる、ということがかつてありました。

今回の冬は、12月初旬から風邪薬を求める仲間が急増し、悪質な風邪の流行を心配していましたが、幸いなことにほとんどの人が鼻風邪を中心とする軽度のものにとどまり、越年中に風邪で衰弱した人が担ぎこまれるということはありませんでした。



風邪以外の疾患でも、緊急性を要する重篤な症状はあまり見られず、越年中の救急搬送は一回にとどまりました。これは、地域生活移行支援

事業などの対策により、新宿地域で野宿を強いられる人数自体が減少したこと、また日常的な活動により症状が重症化する前に医療機関につながる人が増えたことなどが原因ではないか、と考えられます。

また今回、特筆すべきこととして、近隣の住民の方の協力がありました。近所で高齢の女性が野宿しているのを見つけた住民の方が、インターネットで越年の活動を知り、その女性を医療 TENT まで連れて来ていただきました。その女性はその後、無事に緊急保護施設に入所することができました。その他にも、衣類等のカンパを持ってきてくださった方もいらっしゃいました。これは中央公園での越年活動が社会的にも広く認知されてきた結果だと考えています。

ただ、私たちの活動が新宿地域の全ての仲間が届いているわけではありません。残念ながらこの冬にも路上で仲間が亡くなったとの情報をいくつか聞いています。活動の成果に過信することなく、今後も仲間の健康回復につながるような活動を進めていきたいと考えています。

1月4日新宿区福祉事務所福祉行動報告
計19人
医療機関受診と施設・ドヤ入所(生活保護)2人
医療機関受診と施設緊急入所2人
医療機関受診のみ15人

\*新宿連絡会・医療班の活動は、2005年も、ファイザープログラム「心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援」の助成を受けることになりました。ファイザー株式会社ならびにプログラム関係者の皆様に感謝申し上げます。

\*医療班の活動を振り返った座談会が、新宿ホームレス支援機構発行『季刊 Shelter-less』2004年冬号に掲載されています。ぜひ一読ください。

# 第11回 越年報告「残されたものと落ちてくるもの」

パトロール班：上釜 一郎

第11回越年を迎えるにあたってパトロール班では頭を悩ませていました。これまで長年東口コースの責任者を務めていた「ちろりん村」の仲間が腰痛の為、越年期間中パトロール班から炊き出し班へ移動することになってしまったからです。

この仲間は寡黙でよく働く男です。歩くペースが速すぎて、慣れないボランティアを置いてきぼりにしてしまいそうなのがたまに傷ですが、何より約4年前に新宿での支援活動に足を踏み入れた私にパトロールで出会う当事者との関係の機微を身をもって教えてくれたのがこの仲間でした。

8日間という長丁場だった前回と異なり、今回は6日間と比較的短期間だったことが不幸中の幸いでしたが、大事な大黒柱を一本無くした状態で新宿中央公園、新宿駅周辺、戸山公園の仲間アプローチ/フォローする為に大分「き・り・も・り(体制の調整)」して合理的なスケジュールを組んだつもりです。

そんな状況でなんとかなだれ込んだ今回の越年でしたが、驚かされたのは初日の大雪もさることながら駅周辺のパトロールで出会う仲間の数の変化でした。

近隣のカトリック教会が年末年始に宿泊援護を始めた影響からか、駅周辺の地上や地下で出会う仲間



の数は前回より約100名の減少ぶりで、「いつもなら、閉店後のあの店の前にあの人たちが寝ていたのに…」と、各コースのポイント、ポイントが空振りつづきで「野宿者が減ることは望ましいことだけ(おまけに楽なのはいいけど)」何だかまいち達成感(支援者冥利?)に欠けるパトロールがつづきました。

全体の仲間の数が減っているにもかかわらず、ここ一年の間に新しく顔を見るようになった仲間(比較的若年者が多い傾向でした)が例年に比べ多数パトロールにも参加してくれたことがまた一つ特徴的でした。

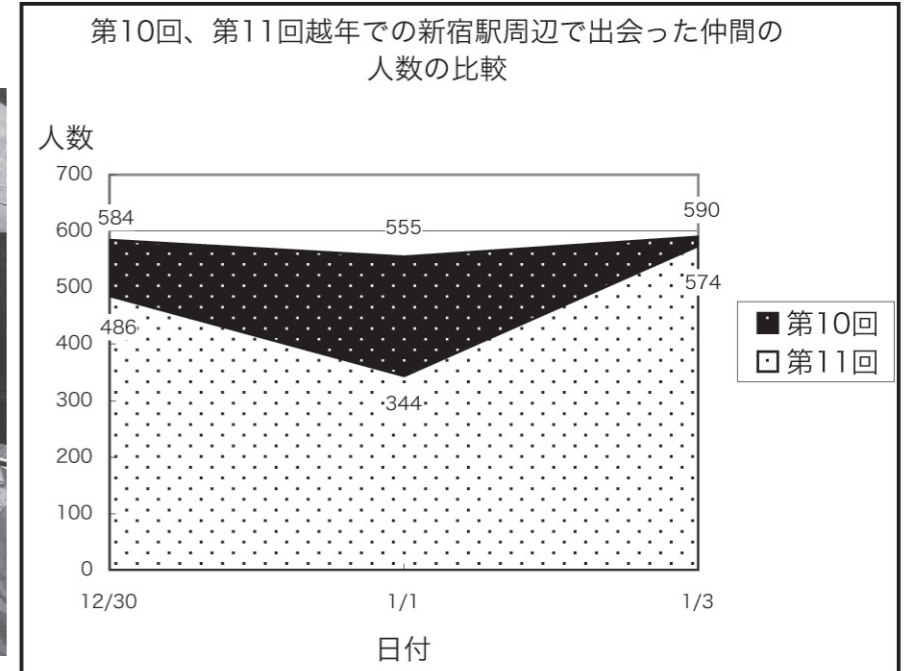
新宿中央公園のポケットパークに設置した越年のテント村を拠点にして、野宿の当事者が支援の当事者として、与えられる者が与える者として立場を逆転し、自分にできることを周りの常連やリピーター(越年限定)から見よう見まねで学びながら、昼も夜も深夜もビラや毛布やカイロを配り歩き(時にはダンボールハウス作成の協働作業も!)パトロール班を牽引していく姿を見ていると、ここは彼ら(僕ら)にとって大事な居場所であり、彼らには適切な環境(資源)や支援があれば自分たちが置かれた状況を克服する力と可能性をまだまだ持っているのだと感じさせられました。

1月2日の午後には近隣のカトリック教会の宿泊援護も終了し、仲間のカウント数は前回に迫る勢いで増加しましたが、結果としては減少傾向でした。今年度新宿区内では都区共同事業である地域生活移行支援事業(以下、「新事業」という)によって概ね400名強の仲間がアパート生活への移行を予定していると言われています。年内には大多数の仲間が移行を済ませており、越年中に新宿駅周辺で出会った仲間は若干の新事業の待機組(移動層)も含まれると思われますが、概ねは事業の対象から外れた仲間たちです。

新事業の手法をそのままに対象者を駅周辺の仲間へ拡大することが適当であるかは一概には言えませんが、東京都の「走りながら考える」というその柔軟な姿勢を尊重しつつ、いずれは適切な内容での駅周辺の仲間への適用を望みます。

また、行政や民間の野宿者への支援策(路上から畳の上への支援策)が一步步充実していくなかで、やはり一定数の方々が新しく駅周辺に野宿を余儀なくされていると思われます。人を畳の上から路上へ落とすことのない事前の支援策(予防策)も今後充実されることを切に願います。

最後に、昼、夜、深夜通してのスケジュールをパトロール班や医療班との連携で無事消化できたのも日頃から参加・協力されている仲間やボランティアの皆さま、また越年期間中一日でも参加してくれた皆さまのおかげだと思っております。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。



第11回越年での新宿駅周辺で出会った仲間の人数 \* ( )内は第10回的人数

	12/29 (水)	12/30 (木)	12/31 (金)	1/1 (土)	1/2 (日)	1/3 (月)
西口	78	93 (110)	/	104 (153)	84	107 (119)
都庁下	77	36 (31)	/	30 (30)	42	45 (32)
北口	41	56 (75)	/	34 (86)	65	64 (98)
東口	/	62 (73)	/	/	/	72 (74)
計	196	247 (289)	/	168 (269)	191	288 (323)
4号街路	68 (87)	104 (120)	60 (65)	65 (101)	95 (112)	104 (99)
地下広場	123 (160)	135 (175)	80 (86)	111 (185)	150 (153)	182 (168)
計	191 (247)	239 (295)	140 (151)	176 (286)	245 (265)	286 (267)
総計	387	486 (584)	/	344 (555)	436	574 (590)

新宿越年への物品、現金カンパありがとうございました。

新宿連絡会 2004年7月ー2005年1月まで 会計報告



収入)		支出)	
炊出し部門寄付	286,811	炊出し事業費	427,207
活動部門寄付	50	医療活動事業費	6,073
越冬部門寄付	234,872	パトロール事業費	51,088
通信部門寄付	45,300	その他の活動費	77,589
その他寄付	315,700	福祉面会事業費	67,049
医療分野寄付	4,000	自立支援事業費	183,710
夏まつり寄付	43,550	教宣活動事業費	859,117
緑の党より義援金	2,000,000	越冬活動費	909,396
事業収益	116,100	事務費	224,004
前期繰越金	1,767,762	文化娯楽事業費	206,265
		池袋関連事業費	161,500
		雑費	9,090
		次期繰越金	1,632,057
合計)	4,814,145	合計)	4,814,145

# 新宿花見の宴

4月2日(土曜日)

午前11時新宿御苑新宿門前集合

参加費無料(酒類持ち寄り大歓迎)

今年もやります。新宿連絡会、新宿連絡会やねの会、NPOモヤい、NPO新宿の4者合同大花見大会。路上のおっちゃんも、アパート入ったおっちゃんも、生活保護とったおっちゃんも、同じ仲間だ元気にやろう。飯も出ます。酒も出ます。普段は入れぬ新宿御苑の芝生に寝転がりよもやま話で盛り上がりよう。花見の宴から都庁行動、メーデーへ！春は俺等の季節だ！

